



令和7年度
子ども発達支援センター通信
ひまわり 〒 65-5967
たんぽぽ 〒 82-3116



今年度も残り3か月となりました。今年、就学や進学を迎えるお子様は、途切れのない支援を行えるよう、学校と連携をとっていきたいと思います。今後も子ども発達支援センターの活動に、ご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。

『言葉の遅れが気になる…』『言葉の発達について知りたい…』 そんな事はありませんか？

今回のテーマ 「ことばの発達について」

○ことばの発達と個人差○

ことばの発達は段階的に進んでいきますが、発達スピードは個人差がとても大きいです

泣く

『オギヤー
オギヤー』
赤ちゃんのはじ
めてのことば

クーペー

『クークー』
『ゴロゴロ』
ご機嫌のときに
のどを鳴らす

囁語

『アー』『ウー』
単純な母音を中心
に音声を発するようになる

有意語が混ざる

『ワンワン』
『でんしゃ』など
有意語が数語理解でき
るようになる。意味は
通じないがおしゃべり
をするようになる

二語文、三語文

『ママ おやつ
ちょうだい』など
わたし、ぼく、き
みなどの同義語
を言い始めるよ
うになる

○言葉を発しやすい環境をつくる○

- ① **反応する** 子どもからの発信を上手に受け止めよう。子どもからの働きかけにきちんとこたえる。
- ② **体験させる** 外遊びの機会を増やす。感覚や運動機能の発達には体を使った遊びが効果的。
- ③ **笑い声を増やす** 楽しい遊びと一緒にする。ことばの発達には、他者とのコミュニケーション能力が必要です。もっとも身近な親と一緒に楽しい経験を積み重ねると、人との関わり方を身に付けることができるようになります。
- ④ **睡眠と食事** 生活リズムを整える。心身の発達には睡眠と食事が重要です。とくに子どもは眠っている間に脳や神経のネットワークが発達します。
- ⑤ **共感する** 子どもの気持ちによりそう。子どもの発したことばを繰り返したり、肯定したり共感することで子どもは安定し、信頼関係を築けます。言い間違いを指摘したり、言い直させたりするのはやめましょう。
- ⑥ **強い刺激から守る** 家族仲良く協力しあう。大声や怒鳴り声、ケンカなどの強い刺激は子どもの脳の発育に影響します。夫婦ケンカや暴言、大声で子どもを怒鳴りつけるのはNGです。

◎保護者の方がすべきサポートは、子どもと心を通わせ、笑顔を増やす環境を作り、コミュニケーションへの興味を引き出す働きかけを続けることが最も大切です。

ことばの遅れが気になるなら 古莊純一監修より抜粋